



「白い宝石のはなし」

歯科の最新情報シリーズ

第 6 回

歯が折れたら大変！

関 文久（日本アイ・ビー・エム健康保険組合 予防歯科）

硬い物を噛んだら歯がかけた、転倒して歯が折れたなど突然起こるのが「**歯の破折**」です。歯が折れたら審美性だけでなく、摂食など機能的にも大きな問題となります。今回は歯の破折についてご紹介します。

●歯の破折の種類

破折には歯ぐきから上に見えている部分が折れる**歯冠破折**（図1-A）と、歯ぐきに隠れている根の部分が折れる**歯根破折**（図1-B）があります。歯冠破折では歯の表面にヒビが入っている、端が少しかけた、ぶつけて大きく歯がかけた場合など色々な状況が発生します。かけた部分を人工物で補修したり、神経を取る処置（根管治療）が必要となる場合もあります。一方、歯の根が割れてしまった場合には、細菌感染により歯ぐきが腫れて痛んだり、物が噛めないという症状が出ることもあり、抜歯せざるを得ないことが往々にしてあります。

図1-A 歯冠破折

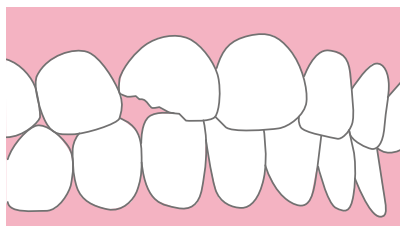
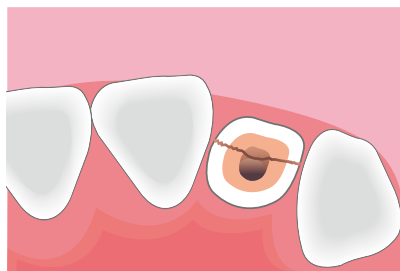


図1-B 歯根破折

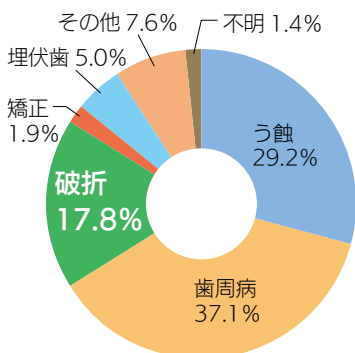


●歯根破折は抜歯の原因になります！

「第2回永久歯の抜歯原因調査」（2018年）によると、日本人の抜歯の原因第3位は「破折」です（図2-A）。1位は歯周病、2位はむし歯ですが、実際には歯周病やむし歯などで抜歯となっている歯の中にも、破折を起こしている歯は多く含まれていると考えられます。

また歯根破折が原因で抜歯された歯の神経（歯髄＝しずい）の有無から比較したものが図2-Bです。むし歯が進行して歯の神経を取らざるを得ないことがあ

図2-A 抜歯の主原因



りますが、神経がある歯（有髄歯）の割合が2.8%であるのに対し、神経がない歯（無髄歯）では26.5%と顕著に高い値を示しました。つまり有髄歯と比べて無髄歯の破折の割合の方が明らかに大きかったことがわかります。

●歯の破折の原因は？

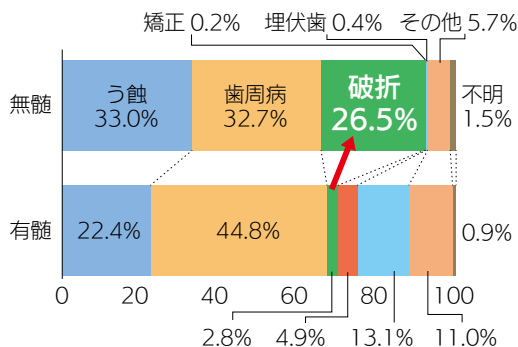
上下の奥歯が緊密に噛みあっている状態などは歯冠破折の原因になります。また神経をとって長期に経過している歯、残存している歯の厚みが薄い歯、歯根の強度が低下している場合などは歯根破折の原因になります。その他では、歯ぎしり、食いしばり、硬い物を噛む習慣や転倒などでの外傷も破折の原因となります。また、歯根への応力集中が起こりやすい金属製のポストコア（土台）、適合不良な詰め物など過去の治療状況が歯根破折の原因となることもあります。

●歯根破折の症状は？

強い痛みはないものの、以下のような場合には歯根破折の可能性がありますので、歯科医院で調べてもらいましょう。

1. 差し歯や冠が土台ごと外れる
2. 痛みはないが歯ぐきの一部が腫れている、または一部だけ深い歯周ポケットを形成している
3. 噛み締めた時に「パキッ」と音がした
4. 1本の歯だけ動く
5. 原因が特定できない口臭がある

図2-B 抜歯主原因の歯髄の状態別比較



●歯の破折を予防するには？

定期的に歯科医院で歯科健診を受けて、むし歯や歯周病のチェックの他に、歯の破折の有無を調べてもらうことが重要です。近年は通常のレントゲン検査だけではわかりにくいので、歯のひび割れ（クラック）や歯根破折を歯科用CT撮影や顕微鏡で確認することもできるようになり、歯の破折が比較的早期に発見できるようになりました。

ご自身の予防としては、まずは神経を取るようなむし歯にならないことが大切です。また歯に大きな力がかかる歯ぎしりや食いしばりに対しても対策が必要です（詳しくはNo.118秋号を参照）。就寝時の歯ぎしりでは自分の体重と同じくらいの力が歯にかかると言われているので、「ナイトガード」と言われるマウスピースの使用（図3）も検討しましょう。

今まではむし歯と歯周病の予防を意識してきたと思いますが、これからは歯の破折にも注意していきましょう。

図3 ナイトガードの装着

